

安全に安心して学べる学校を目指して

—速やかに避難態勢をとり、児童生徒の安全を確保するための防犯避難訓練の実施—

県立稲荷山養護学校 校長 葦澤 久人
〒387-0022 長野県千曲市野高場1795 Tel (026)272-2068

I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模

学級数 肢体不自由児童生徒数

小学部 18 54名

中学部 10 36名

高等部 11 32名 計122名

うち 車いす87台

教職員数 100名

2 地域環境

長野市の中心部から南へ15キロ。自然豊かな田園地帯。学校周辺には民家もある。19年度から県内初の知肢併置校として開校。新校舎の建設が進

んでいる。医療福祉センター隣接。

II 取組のポイント

1 防犯避難訓練を年2回実施。

1回目は、教職員のみ。2回目は、児童生徒がいる時間に実施。

2 2回とも警察官の派遣を申請

3 計画案、行動細案を作成し、事前・事後研究会を通して全体の流れや教職員一人一人の動きを想定し、より確実に児童生徒の安全が確保できるよう準備して取り組むようにした。

III 取組の概要

第1回 防犯避難訓練計画案（放課後、教職員対象）

- 目的 (1) 不審者の侵入を想定し、速やかに避難態勢をとり、児童生徒の安全確保ができるよう訓練の意義を理解する。
(2) 専門家に不審者への対応について指導を受け、非常時の職員の行動を見返す。
(3) 各教室の戸締まり（施錠）や防犯環境など確認し、不審者の侵入に備える。
- 日時 平成17年5月17日（火） 16:00～17:00
- 想定 (1) 玄関にて来校者に声を掛けたところ、呼びかけに応じず不審な様子が見られたので全校に避難を呼びかける。
(2) 不審者の身柄確保に努める。
- 避難場所 各教室
- 当日の実施方法

時間	全体の流れ	動き
16:00	不審者発見	○玄関に来校者Aがあり、近くを通りかかった職員Bが受付の記入と来校者札の装着を依頼。 ○来校者Aが呼びかけに答えない、表情が険しいなど不審な様子が見られたので、そばにいた職員Cに避難を呼びかける全校放送を依頼。 ○職員Bは不審者に対応。（付近の児童生徒の安全確保をしつつ、不審者の動向を大きな声で周辺に伝える）職員Cは直ちに教頭に連絡。避難を呼びかける全校放送をするように伝達する。

	全校放送 避難開始	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">放送：「訓練、訓練。水道管が玄関前で破裂しました。全校生徒は教室に入ってください」。(2回放送)</div> <p>○職員Cは放送後職員室で校長、教頭、教務主任に状況を報告する。(携行している武器、不審者の様子、対応の状況、侵入経路)</p>						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">職員室他</th> <th style="width: 33%;">各教室</th> <th style="width: 33%;">医療福祉センター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>○職員室では校長、教頭、教務主任が報告を受ける。校長の指示により教務主任が警察に通報(今回は通報しない)。</p> <p>○教頭、事務職員は発見者と合流して不審者の対応にあたる。</p> <p>【連絡係1】教務主任は医療福祉センターへ連絡(今回はなし)。</p> <p>【連絡係2】医療福祉センター通路閉鎖。(訓練では閉鎖せず)</p> <p>○寄宿舎職員は放送後、合流して不審者の対応にあたる(寄宿舎に児童生徒がいる場合は教室と同様に施錠し、待機)。</p> </td> <td> <p>○放送後避難開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は教室に入り、中から施錠し待機。車椅子に乗り、いつでも移動できる態勢をとる。 ・各教室ごとに児童生徒の確認を行い、教室にいない児童生徒があった場合は捜索し安全を確保する。 ・児童生徒及びセンター職員が避難してきた場合は、施錠を解き教室に入れる(必ず人物確認をする)。 <p>【連絡係3】各部部长</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室や各部の様子を把握し教務主任に連絡。 </td> <td> <p>○学校からセンターへ電話連絡。(今回はなし)</p> <p>「防犯訓練です。学校玄関より不審者侵入。児童生徒は各教室に避難します。センター内放送をお願いします。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターは館内放送を流す。 <p>《移動中のセンター職員と児童生徒の行動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内にいる場合は、近くの教室に避難する。 ・センター内にいる場合は訓練室に戻り待機。 <p>○学校職員が迎えに来るまでそのまま待機している。(今回はなし)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	職員室他	各教室	医療福祉センター	<p>○職員室では校長、教頭、教務主任が報告を受ける。校長の指示により教務主任が警察に通報(今回は通報しない)。</p> <p>○教頭、事務職員は発見者と合流して不審者の対応にあたる。</p> <p>【連絡係1】教務主任は医療福祉センターへ連絡(今回はなし)。</p> <p>【連絡係2】医療福祉センター通路閉鎖。(訓練では閉鎖せず)</p> <p>○寄宿舎職員は放送後、合流して不審者の対応にあたる(寄宿舎に児童生徒がいる場合は教室と同様に施錠し、待機)。</p>	<p>○放送後避難開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は教室に入り、中から施錠し待機。車椅子に乗り、いつでも移動できる態勢をとる。 ・各教室ごとに児童生徒の確認を行い、教室にいない児童生徒があった場合は捜索し安全を確保する。 ・児童生徒及びセンター職員が避難してきた場合は、施錠を解き教室に入れる(必ず人物確認をする)。 <p>【連絡係3】各部部长</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室や各部の様子を把握し教務主任に連絡。 	<p>○学校からセンターへ電話連絡。(今回はなし)</p> <p>「防犯訓練です。学校玄関より不審者侵入。児童生徒は各教室に避難します。センター内放送をお願いします。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターは館内放送を流す。 <p>《移動中のセンター職員と児童生徒の行動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内にいる場合は、近くの教室に避難する。 ・センター内にいる場合は訓練室に戻り待機。 <p>○学校職員が迎えに来るまでそのまま待機している。(今回はなし)</p>
職員室他	各教室	医療福祉センター						
<p>○職員室では校長、教頭、教務主任が報告を受ける。校長の指示により教務主任が警察に通報(今回は通報しない)。</p> <p>○教頭、事務職員は発見者と合流して不審者の対応にあたる。</p> <p>【連絡係1】教務主任は医療福祉センターへ連絡(今回はなし)。</p> <p>【連絡係2】医療福祉センター通路閉鎖。(訓練では閉鎖せず)</p> <p>○寄宿舎職員は放送後、合流して不審者の対応にあたる(寄宿舎に児童生徒がいる場合は教室と同様に施錠し、待機)。</p>	<p>○放送後避難開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は教室に入り、中から施錠し待機。車椅子に乗り、いつでも移動できる態勢をとる。 ・各教室ごとに児童生徒の確認を行い、教室にいない児童生徒があった場合は捜索し安全を確保する。 ・児童生徒及びセンター職員が避難してきた場合は、施錠を解き教室に入れる(必ず人物確認をする)。 <p>【連絡係3】各部部长</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室や各部の様子を把握し教務主任に連絡。 	<p>○学校からセンターへ電話連絡。(今回はなし)</p> <p>「防犯訓練です。学校玄関より不審者侵入。児童生徒は各教室に避難します。センター内放送をお願いします。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターは館内放送を流す。 <p>《移動中のセンター職員と児童生徒の行動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内にいる場合は、近くの教室に避難する。 ・センター内にいる場合は訓練室に戻り待機。 <p>○学校職員が迎えに来るまでそのまま待機している。(今回はなし)</p>						
16:10	警察到着 不審者身柄確保 全校放送	<p>○教頭：不審者の身柄が確保され、安全が確認された後全校放送をする。</p> <p>「訓練、訓練。不審者が確保され安全が確認されました。それぞれの防犯体制を解いて体育館に集合してください。」</p> <p>○訓練終了</p>						
16:20 ~17:00	事後研修会	<p>警察の方からの指導</p> <p>1 訓練時のビデオを視聴 2 警察署員の講評と指導</p>						

6 その他

- (1) 事前に不審者A役、職員B役、職員C役を決めて、役割や想定を確認しておく。
- (2) 各部において各教室の鍵の設置、安全が確保されるか、薬物、刃物などの危険な物が目につきやすい場所がないか等確認しておく。
- (3) 訓練に先立って(15:50)各教室で、施錠の方法、侵入に対応する方法についてシミュレーションする(児童生徒を保安する位置、ガラスを割られた場合の対応、教室備品で侵入を食い止める方法、脱出路の有無等)。
- (4) さすまたの設置場所の確認。職員室両入り口付近、事務室、寄宿舎 各1

《第1回防犯訓練行動細案》

時 間	全体の流れ	動 き
16:00	【ビデオ撮影】 不審者Aの登場	・ Aは下駄箱付近をうろうろし、校舎内の様子を伺う。
	職員Bの対応	・ 不審者を発見し、近づく。 ・ 声をかける。 B「どちら様ですか」 A「・・・・・・・・」明らかに挙動が不審である。 B「事務室で受付をしてください」 A「・・・・・・・・」 B「今の時勢ですので、不審者と見なしますよ」 A「・・・・・・・・」 B「学校から出て行ってください」 →この時点で不法侵入が成立する。ただし、この様子を見ている証人が必要。(訓練では、職員Cが証人となる。)
	不審者Aの侵入 * A、Bは図書館前で待機	・ AはBを押しつけ、教室に向かって早歩きで侵入する。 ・ Bは職員Cに避難放送の伝令を依頼する。 「C先生、教頭に避難放送の依頼をしてください」
	職員Cの報告	・ Cは職員室の教頭のもとに駆けつけ、避難放送の依頼をする。 「玄関より不審者が侵入しました。全校へ避難放送をしてください」
	教務主任(あるいは、連絡職員)の全校放送	・ 放送「訓練、訓練。水道管が玄関前で破裂しました。全校児童生徒はただちに教室に入ってください」 2回繰り返して放送する。
	職員Cの報告	・ Cは放送中あるいは放送後、校長、教頭、教務主任に状況を報告する。 「不審者は、ナイフを所持。非常に興奮している様子。B先生が不審者の対応中。玄関から保健室方面に移動」
	不審者Aは侵入を続ける	・ Aは大声を上げたり、大きく足を踏みならしたりして教室の扉を激しく開けようとしながら移動する。 ・ Bは安全な間合いをとりながら、「やめなさい」「出て行きなさい」と説得(各教室に避難している職員に、不審者が近づいてきたことを知らせる役目)しながら後追いです。 * 侵入経路・・・玄関→小1組→保健室→中1組
	不審者の確保	・ 中1組教室前で、職員Bと駆けつけてきた教頭(さすまたを使用)と寄宿舎職員(いす等使用)に確保される。 * 終了。各教室へ合流してください。
	16:10	教頭の放送
16:20	全体会	・ 体育館に整列し、報告する。 ・ 訓練終了
	研修会	・ 不審者への対応を撮影したビデオを上映しながら、警察署員から講評と指導を受ける。

【警察署員から指導していただいたこと】

○ 不審者対応について

(1) いつでも自分が被害者になりうるという自覚を持つことが大切である。

(2) 校内での不審者及び身分不明者に対する対応

① 名札をつけておらず、校舎内を歩いている場合・・・必ず声を掛ける。

② 保護者と見分けがつかない場合・・・「こんにちは。保護者の方ですか」「事務室にお立ち寄りになりましたか」等声を掛ける。

(3) 明らかに挙動不審な様子に対する対応・・・(例)様子を見て声を掛ける。

教職員「どちら様ですか」

不審者「・・・・・・・・」

教職員「今の時勢ですので、不審者と見なしますよ」

教職員「学校から出て行ってください。」

※「不法侵入」が成立するので、そばで聞いている人がいることにより、証人となる。

近くに人がいない場合は、聞こえるように大声で言う。

(4) 危害を加える可能性がある時の対応(凶器を持っている、職員に向かってくる等)

① 連絡できる状態であるときは、すぐに職員室に連絡・全校緊急放送の依頼。

同時に大声で緊急事態を知らせる。

② 緊急を要するときは、近くの非常ベルを鳴らして危険を知らせる。

同時に、大声で緊急事態を知らせる。

③・さすまたや近くにあるもので自分の身体に近づけないようにする。相手を興奮させないようにする。

・さすまたは、2人で使うことが望ましい。一人は顔の付近、もう一人は足の付近をねらう。

・一人の時は、さすまたをたてに構えてつく。股間付近から足が効果あり。

・さすまたがない場合は、机や椅子等教室にあるものを防犯具として活用し身を守る。(正当防衛)

(5) その他

・全校放送の際、「不審者侵入」と言わず、「水道管破裂」と言ったことは、不審者の気持ちをあおらずにすむのでよい。

【当日の様子】



不審者A発見、職員B対応



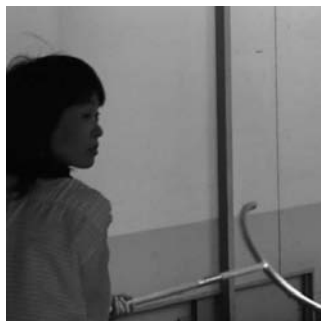
不審者A、刃物で威嚇



不審者A侵入、職員B・C対応



全校放送



複数の職員がさすまた等で対応



不審者確保

【感想】

○ 不審者A役の職員

- ・ 職員がだんだん多くなってくると自分の気持ちも高揚し、大胆な行動になっていく。
- ・ さすまたが体に挟まると身動きができなくなる。
- ・ 教室に鍵がかかっているとその教室の侵入をあきらめて、次に移ろうと思った。

○ 職員B役

- ・ どこでその人を不審者と判断するかが難しい。その際の声かけも迷う。
- ・ 急に刃物を見ると気が動転する。刃物に対応するすべがない。
- ・ 教室の方向に不審者が歩いていくのを止めようとしてもどうすることもできなかった。大声を上げたり、応援を頼んで、複数で対応するしかない。
- ・ 不審者に近づきすぎて刃物が体にあたる危険性もあった。怖い。

○ 不審者に立ち向かった職員

- ・ 非常に怖かった。さすまたは有効であると思った。
- ・ さすまたを不審者に取られたらと考えると怖い。もっと訓練が必要である。
- ・ 大勢で対応することが大切である。

○ 教室で待機していた職員

- ・ 確認してあっても、不審な声を聞くと教室の施錠が確実か不安であった。
- ・ すぐに教室から待避する態勢を取ることができた。
- ・ ビデオで撮っており、研修会でそれを見ながら研修できて良かった。
- ・ 色々な場面でこのような訓練を行う必要性を感じる。
- ・ いつでもどこでも非常事態はあり得るという気持ちを常に持ちたい。

第2回 防犯避難訓練計画案（授業時間中、教職員・児童生徒対象）

- 1 目的 (1) 不審者の侵入に際し、速やかに避難態勢をとり、児童生徒の安全確保ができる。
(2) 非常時の際の児童生徒、職員の動きを確認する。
※ 事前・事後の児童生徒への指導を計画的に、継続的に行う。
※ 児童生徒の安全確保を第一とする。
(3) 各教室の戸締まり（施錠）や防犯環境、安全確保の仕方について再確認し、不審者の侵入に備える。
- 2 日時 平成17年6月6日（月） 10：40～11：30 第3校時
- 3 想定 医療福祉センター通路からの来校者に声を掛けるところ、呼びかけに応じず不審な様子が見られたので全校に避難を呼びかける。
- 4 避難場所 各教室
- 5 当日の実施方法
※ 第1回計画案に同じ（10：40～11：05）

※ 不審者確保後、体育館に全児童生徒、職員集合

11:10	全体会	・ 学校長より訓練の講評 ・ 警察署員から訓練の講評 ・ 解散、各教室に戻る。
11:30	各教室にて	・ 訓練の事後指導を行う。

《第2回防犯訓練行動細案》

※ 第1回計画案に同じ（10:40～11:05）

※ 不審者確保後、体育館に全児童生徒、職員集合

【防犯避難訓練前、各教室で児童生徒に指導する内容】

- 不審者侵入の恐れ
 - ・ 昨今、身近なところで児童生徒に危害を加える事件が各地で発生していること。
 - (例) ・ 不審者が学校に侵入する。児童生徒に危害を加える。
 - ・ 登下校時、あるいは居住地域でも不審者の出没が多くなっている。
 - ・ 校内で異常に気づいたら、教師に報告すること。
- 非常時のための訓練実施について
 - ・ 不審者が侵入した際を想定し訓練を実施すること。
 - ① 訓練時、一人一人の行動を確認する。
 - ・ 不審者が侵入してきたとき、どうしたらよいか、考える。
 - ・ 様々な状況が考えられるので、教師の指示を聞いて動く。
 - ・ 大人が近くにいない場合、自分で判断する。
 - ・ まず逃げる。近くの教室に入り鍵を掛ける。
 - ・ 大声が聞こえてもあわてない。
 - ・ 教室内の動き、避難の方法、避難場所等について、様々な状況を想定して、一人一人がどのように命を守ればよいか、話し合う。
 - ② 放送をきちんと聞く。

【防犯避難訓練後、各教室で児童生徒に指導する内容】

- 非常時の対応
 - ・ 安全確保が第一であること
 - ・ 避難経路の確認
 - ・ 日頃から非常時を想定し、真剣に訓練することの大切さ
 - ・ 「不審者は、動くものには敏感に反応する」
「児童生徒の声に興奮する不審者も多い」
「なるべく不審者と目を合わせない」 等 を伝える。
 - ・ 不審者のいる場所によって避難経路や避難場所が変わってくることもあるので、放送や教師の指示をしっかりと聞く
 - ・ 避難するときは、防災訓練同様「お（押さない）か（駆けない）し（しゃべらない）も（戻らない）」の原則を守る。

【感想】

- 児童生徒
 - ・ 遠くから怒鳴り合うような声が聞こえて怖かった。
 - ・ 不審者が学校にも来るようになったと聞いて怖い。

- ・ 先生の言うことを守りたい。一人でいるときは、どうしたらよいか不安。
 - ・ 教室で先生と一緒に静かに放送を聞くことができた。
 - ・ 不審者が近くに來たらどうしたらいいかということ話し合った。
 - ・ 避難訓練も、防災の訓練も真剣にやりたい。
- 不審者に立ち向かった職員
- ・ 非常に怖かった。児童生徒が教室にいると思うと、是が非でも不審者から子どもたちを守ろう、と考え、不審者に体当たりをしてしまった。たぶん、けがをしていたと思う。

IV 考 察

1 防犯避難訓練を年2回実施したこと

- (1) 1回目は、教職員のみとし、不審者侵入時にあわてずどう対応するかを、警察署員の指導を受けながら実施。2回目は、1回目の成果や反省を生かし、児童生徒がいる時間により実践的に実施した。また、1回目と2回目の間をあまりおらずに実施したので、意識が高まった。
- (2) 2回目は、職員も落ち着いて対応できたため、児童生徒が不要な不安を持たずに訓練に参加できた。

2 2回とも警察官の派遣を申請

- (1) 事前に係と打ち合わせをしておき、観点をしぼってご指導いただいた。
- 1回目 ① 不審者への対応の留意点
2回目 ② 児童生徒の安全確保
- (2) 専門的な立場から、教職員の対応や留意すること等についてご指導いただき、「不法侵入成立」「正当防衛」「安全確保の方法」等大変参考になり、非常時に生かせるノウハウを学ぶことができた。

3 計画案、行動細案の作成、事前・事後研究会の実施

- (1) 防犯避難訓練実施に向け、前年度から係会での検討、警察との連携等準備し、実施前には事前研究会を行い全職員で共通理解し取り組むようにした。全職員の課題として意識することができ、訓練にも真剣に取り組む姿が見られた。
- (2) それぞれの場所にいると、見るできないので、不審者対応の様子をビデオに撮り、事後研究会で全職員で視聴しながら、警察官の指導をいただいた。具体的で、より適切な対応を学ぶことができ有効であった。

4 その他

- (1) 昨年度より今年度、1回目より2回目と職員の対応も落ち着いて冷静に訓練に参加できるようになっている。繰り返し訓練を実施することの大切さを感じた。
- (2) 本年度初めて、児童生徒がいる時間に防犯避難訓練を実施した。より実践的であり、来年度は更に訓練回数を増やしたい。
- (3) 不審者を校内に入れないための、学校の安全管理について今後十分な対応をしていくよう努めたい。
- (4) 防犯避難訓練を契機に、警察署との連携が深まり、児童生徒の安全について気軽に相談できるようになった。